

熊本・徳永直の会会報

第48号

第二十八回 孟宗忌案内

第二十八回孟宗忌は、二月十二日（土）今年も熊本近代文学館と共催でやることになった。開催要領は次のとおりである。

第一部 碑前祭 立田山登山口徳永直文学碑前

10時30分～11時（献酒・献花・メッセージ・経過報告）

第二部 講話と朗読

13時30分～16時 熊本近代文学館正面ロビー

（熊本市水前寺バス停下車江津湖方面へ徒歩五分）

1、朗読 「日本人サトウ」 ほか（熊本朗読研究会）

2、講話 『日本人サトウ』について

（佐藤三千夫記念会事務局長 金野文彦）

3、フリー討議

第三部 懇ぐ会 水前寺十徳屋

17時～19時 会費五、〇〇〇円

第四部 特別展示

今年は二月十二日だけ徳永直の特別展示をやります。

第二十七回孟宗忌報告

第二十七回孟宗忌は、徳永直の命日に当たる二月十五日が、ちょうど日曜日という好都合のなかで例年どうり行なわれた。朗読作品は昭和四年作「カットされない風景」で、日露戦争下の下層民衆の一場面を描いた小品だった。多くの聴衆に感銘を与えた。懇ぐ会には高等学校国語研究会メンバーの参加もあり大盛況であった。



メッセーじ

—日本海外派兵中の孟宗忌へ—

いかなる美名をつけようとも、大儀なき派兵に駆り出される兵士の姿は、かつての「シベリア出兵」を思い出します。

酷暑と極寒、砂嵐と風雪の違いはあっても、平和の先導者・佐藤三千夫が、喝破したように「巨億の日本労農階級の膏血の結晶を空にし、出征無産兵士をいたずらに」灼熱とテロの危険にさらすのであります。

今、また、「人類未曾有」の平和の世紀をめざし、徳永直のごとく、光を掲げ反戦のペンのリレーを広げていきましょう。

孟宗竹よ、西の十字路へ伸びよ！

第二十七回孟宗忌万歳！

二〇〇四年二月十五日

佐藤三千夫記念会



徳永直読書会報告

参加する度に、家族が週末構つてくれないと私を叱るのだが、それに似合うだけのものが得られるので、毎回楽しく参加している。

得られる最大のものが、それは参加者それぞれの、作品に対する読みだ。毎回とても個人的な面々が、さろん・ド・漱雲にぎつしりと集まり、はなしの華を咲かせている。それは往々にして「脱線」という形になるのだが、そのはみ出す部分が多いほど、話が面白く趣が尽きない。参加者それぞれが自らの経験・知識に基づいた見解を語り、その言葉の中で私は皆の多様な読み方を再体験する。特に私のような若輩には、先輩方の与えられる刺激が非常に心地よく、毎回とても得をした気にさせてくれる。

勿論、このような場を生み出す徳永の作品にも、毎回うならされている。小工場の倒産、農村における搾取など、某氏が言うように「残念ながら」現在でも通用するテーマであり、それを時に俗語を交えながら鋭くえぐり出す徳永の筆の新しさに、私は感嘆する。

会後に歓談する南風堂で一杯と手料理が最高だと、最後に付け加えておく。(八月二日、健軍・小崎)

計報

・徳永街子さん(直の三女、女優、二〇〇四年十二月十日、胃かいようで逝去、七十歳。映画「太陽のない街」で女工の一人として出演。近年は「広島の子」という一人芝居で活躍中であつた。本会から弔花を捧げた。

・木庭克敏さん、二〇〇五年一月十二日、肺がんのため逝去、六十九歳。本会設立当初からの中心的人物であつた。

文学碑再び危機

徳永直文学碑のある土地売買による文学碑取り壊しの話は、一応鎮静化していたが、今度はあの土地を墓地公園にする話が出てきている。私のところに直接の申し入れはないが、地元の方から手紙で連絡があった。その内容の概略は次のとおりである。

昨年(二〇〇四)年八月初めに、第一回地元民説明会が、有限会社ケイ・アイ・エム企画によって行なわれた。その時Kさんは徳永直文学碑があると質問したら、他に移しますと簡単に答えたんだそうです。それは困ると言ったら、十一月十四日の第二回説明会で、計画書を配り文学碑は残すと言ったそうです。それでも心配だから資料の図面を入れて送って下さったのでした。

そこで図面と計画表を検討してみたところ、とんでもないことが判明した。文学碑と印刷された図面は、いかにもそのまま保存と見せかけてあるが、計画表の面積が、何と68.84㎡となつていてはないか。現在の文学碑の面積は、165.6㎡である。だから現在の文学碑は完全に壊されるわけで、主碑だけ残すという話なのだ。詐欺まがいの図面でだまそうとしている。それに風致地区は墓地なら建設が許されるのかも疑問である。早速熊本市の生活衛生課に問い合わせをした。そんな話は何も聞いていないとのこと。市は墓地公園では痛い目に合っているのだから、そう簡単に受け入れるはずはない。係の人の口ぶりからもそれは感じられた。では、一体何のための住民への説明会なのか。地元住民の要望とでもして市当局に働きかける魂胆なのか。不可解なケイ・アイ・エム企画業者の動きではある。それにしても、徳永直文学碑がまたねらわれたわけで、私たち

は反撃の準備をしなければならない。知らせて下さった地元住民の方に感謝すると同時に、今後も地元住民との密接な連携の必要性を痛感させられたことである。

会報第50号特別発刊を

今年度は、会報48号を第二十七回孟宗忌報告号とし、第二十八回孟宗忌案内号を、第49号とし、来年度は会報50号を記念特集号としようとして計画していた。しかし諸般の事情で第48号発行が遅れてしまった。過去、第30号(一九九四・二)が22ページ、第38号は徳永直生誕百年祭特集で28ページ(一九九九・一)であった。直没後五十年祭も近まつてきた。会報50号を特集にする意義は深い。

会報50号の内容だが、できれば全会員に単文でもいいから執筆してもらいたい。直に直接関係なくてもいい。詩、短歌、俳句等歓迎である。小論文大歓迎。会員外の研究者等にも執筆依頼をする。経費は現在の会費ではとうていまかなえないので、広告を取るとか、特別寄附をお願いするとか、何らかの出版助成金を見つければかなければならぬだろう。

とにかく、会報50号は小冊子として出版したい。まずは会員のみなさんが、何らかの原稿の準備に取りかかって欲しいと願う。原稿締め切りは今秋十月末日を目途にしたい。詳細は第49号(二〇〇五・四)でお知らせする。

徳永直作品選集の出版予告

二〇〇八年の孟宗忌を記念して、徳永直作品の選集を熊本で出版しようとの動きが、本格化している。徳永直作品に再び光を!!

2004年度 決算書

2004年1月～12月(単位:円)

収 入		支 出	
会費納入 52 (含過年度分)	156,000	事務所家賃 (月15,000)	180,000
(一般年会費 3,000)		会報発行 No.47	18,900
" 11	110,000	孟宗忌	6,764
(特別年会費 10,000)		通信費 (電話)	43,327
寄 附	114,083	" 切手葉書 他	11,440
前年度繰越	192,814	弔花 (故徳永街子氏)	11,000
		小 計	271,431
		次年度繰越	301,466
合 計	572,897	合 計	572,897

2005年1月20日

上記に相違ありません。 会計監査

米原 尋子 (米原)

西田 光子 (西田)

会費納入者 (二〇〇三年一月～十二月)
特別会員

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-------|
| 井上 栄次 | 岩本 健一 | 上野美恵子 | 奥山 文彦 |
| 國米 真市 | 杉野 税 | 高光 協三 | 青史 丸山 |
| 宮内みどり | 池田 義一 | 泉 清子 | 植村 勝明 |
| 天草 操 | 大我 孝 | 大友 清子 | 上野 桂子 |
| 浦田 義和 | 梶原 定義 | 菊川 有臣 | 緒方 明子 |
| 海津 広子 | 坂本美津子 | 佐田 恭子 | 吉良 初子 |
| 熊懷 友春 | 平 晋一郎 | 高田 隆子 | 澤田 博行 |
| 下川 浩哉 | 千葉 昌秋 | 寺岡 葵子 | 高田 睦子 |
| 竹田 勉 | 西川 悦子 | 光岡 達之 | 宮崎 啓子 |
| 中野紀美子 | 御村 春子 | 八浪 光岡 | 山戸かずえ |
| 福島 明子 | 渡辺 秀利 | 宮本 春吉 | 輝史 矢部 |
| 弥上 是子 | 廣島 正 | 宮内みどり | 初 千葉 |
| 福田 孝子 | 藤掛 哲夫 | 宮内みどり | 昌秋 津田 |
| 寄附者 | 静夫 金野 文彦 吉良 初 千葉 昌秋 津田 道代 | | |

事務局だより

▽前号で会報は二回出すと書き、そのつもりだったが、結局一回になつてしまった。49号は孟宗忌が終つたらすぐに出したい。50号準備の性格もあるから。

▽台風18号は、泰山木の大きな枝を折つた。碑に覆つていたので、取り除きに行つたら、きれいに除いてあつた。宮崎静夫さんが片付けられたと後で知つた。

▽木庭克敏さんの死は痛い。次号には追悼文を寄せて欲しい。

熊本・徳永直の会 熊本市北千反畑町五一三 さろん・ど・漱雲
〒八六〇〇八五五 TEL・FAX〇九六一三四三〇〇七二
郵便振替 〇一九四〇〇二一一四九八